

(調査様式1)

1. 自己評価及び外部評価結果

作成日 令和5年9月1日

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4670200577
法人名	有限会社 あおい介護福祉会
事業所名	グループホームあおいの家
所在地	鹿児島県薩摩川内市隈之城町1248番地1 0996-20-3221
自己評価作成日	令和5年7月

※事業所の基本情報は、WAMNETのホームページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	http://www.wam.go.jp/
-------------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人NPOさつま
所在地	鹿児島市新屋敷町16番A棟3F302号
訪問調査日	令和5年8月26日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

国道3号線から一つ入った歴史のある静かな住宅地の一角にあります。平屋建て2ユニットの事業所です。隣には日頃散歩をする公園もあり、コロナ禍でもゆっくりと過ごせる場所が整っています。コロナ禍で外出が減っていますが地域の方が野菜やお米を届けて下さったり又、調理資格のあるスタッフが鹿児島郷土料理を作って提供したりと気持ちに潤いを持たせています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

ホームは薩摩川内市隈之城温泉に隣接した住宅地の一角に建てられ、近くには田畑も多く緑豊かな自然に囲まれた地域に位置している。ホールには理念が大きく掲示され、毎月のミーティングでは毎年度設定している施設目標(令和5年度は「褒める」)について振り返りを行い、ゆったりとした環境の中で空気がゆっくりと流れているような環境づくりを目指して、職員間での周知を図りながら日々のケアに反映させている。

管理者は日頃から職員間の信頼と協力関係を大切にして、ミーティング・申し送り等の場で職員の意見・要望を把握するように努めており、「残業を少なくして無駄な時間に呼び寄せない」という職員の立場から見た働きやすい職場環境づくりを目指している。

ホームでは看取りを実施しており、「人生の最終段階における医療・ケアの決定プロセスに関するガイドライン」を整備し、リビングウィル(意思確認)も行っており、本人・家族の思いを汲み取って可能な限り支援・対応できる体制づくりに取り組んでいる。終末期・看取り期においては引き受けてもらえる医療機関が少なく、家族の希望等もあり、ホームでの看取りを実施せざるを得ない状況となっているが、職員の認識は高く意欲的であり、研修やミーティングを実施して振り返りや不安の軽減に努めている。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員はその理念を共有して実践につなげている	リビング壁に理念を掲示、いつでも確認できるようにしている。毎月のミーティングを通して共有している。	理念と共に毎年度設定した施設目標(令和5年度は“褒める”)をホールに掲示し、職員は毎月のミーティングで振り返りながら理念の共有とケアの実践に取り組んでいる。利用者を急かすことがないように配慮し、空気がゆっくりと流れているような環境作りを目指している。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	年に数回、地域にある保育園の訪問や地域自治会の催しへ参加をしていたがコロナの影響で出来ていない。	自治会に加入し、地域住民からの相談を受けるなど、管理者は地域に根付いた施設となるように働きかけている。近くの公園や温泉施設への散歩時に近隣の方々と挨拶を交わしたり、野菜の差し入れを頂くなど地域住民との交流に努めており、今年度は地域の運動会への参加について検討中である。	
3		○事業所の力を生かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて生かしている	自治会に加入している。地域の催し物などに参加させて頂き認知症の理解を深めていたがコロナ禍の為参加できていない。		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	コロナ禍で書面開催を行っていたが、令和5年度より施設にて開催。まだ、コロナ禍と言うことでご利用者様の参加は行っていないが、委員の方への報告や話し合いは行っている。	運営推進会議は令和5年度より2か月毎に対面で開催されている。市職員、民生委員、自治会長、家族代表等が出席して活発な意見交換が行われ、2か月後の会議で前回の課題を回答することが多い。参加者はホームの施設見学を行うなど、ホームについて理解を深める機会として活かし、サービスの向上に繋げている。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連携を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	高齢福祉課や社会福祉課、生活保護課等との連携を行っている。日頃より相談を行い日々の生活に役立ててる。	日頃より介護保険の更新等・地域ケア会議・金銭管理・生活保護受給者に関する対応・虐待ケースについてなど、市役所へ直接出向くことが多く、指導・助言を頂いて協力関係を築いている。市主催の研修会やグループホーム協議会の研修会にはズームでも参加できるが、できるだけ出向いて出席できるように努めている。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	3カ月に一回身体拘束委員会を開催。研修を行っている。又、毎月のミーティング時にも身体拘束のないケアに取り組むための意見交換を行っている。	「身体的拘束適正化のための指針」を整備し、3か月毎に身体拘束適正化委員会を開催している。過去の事例を振り返って勉強会を行ったり、言葉遣いを標準語で丁寧に話すことにより、利用者・職員共に落ち着いて話せるように工夫している。玄関や居室の施錠は行わず、言葉による拘束にも配慮しながら、利用者の自由な暮らしを支援している。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	毎月のミーティングで毎回話合い、お互いのケアの確認を行っている。オンライン等での研修にも参加、知りえた情報の共有を行っている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	知識が不十分なスタッフもいるため、今後研修の機会を設けていきたい。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
9		<p>○契約に関する説明と納得</p> <p>契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている</p>	<p>入居時にご利用者様、ご家族様へ丁寧な説明をするように心がけている。又、入居されてからの不安なことや疑問点についてはその都度個別で話し合いの席を設けている。</p>		
10	6	<p>○運営に関する利用者、家族等意見の反映</p> <p>利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	<p>コロナの影響で直接お話を聞く機会は減ったが電話や月一回のお手紙送付にて意見や要望を伺い近況を伝えるようにしている。</p>	<p>自分の意見や要望を伝えることができる利用者が殆どで、普段の会話・表情・仕草等から把握し、家族の意見等は面会・電話・手続き等の際に把握に努めている。希望される家族には動画やパソコンを通しての面会を行ったり、できるだけ写真を送付するなど、家族との信頼関係を築けるように取り組んでいる。</p>	
11	7	<p>○運営に関する職員意見の反映</p> <p>代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている</p>	<p>ミーティング等で意見を言える機会を設け運営に関する情報共有を行っている。個別の面談は年1回以上実施している。</p>	<p>管理者は日頃から職員間の信頼と協力関係を大切にして、ミーティング・申し送り等の場で職員の意見・要望を把握するように努めており、鍵付きの目安箱も設置されている。職場として「残業を少なくして無駄な時間に呼び寄せない」環境を目指し、研修会や資格取得のためのバックアップ体制も整備して、働きやすい職場環境づくりに取り組んでいる。</p>	
12		<p>○就業環境の整備</p> <p>代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている</p>	<p>職員が働きやすい環境の整備に努めている。</p>		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
13		<p>○職員を育てる取り組み</p> <p>代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている</p>	<p>毎月、内部研修を行っている。疑問に感じたケアや現在進行形のケアについては即座に勉強会を行い、プリント等を配布個々でも学べるよう配慮。無資格者や力量に応じた研修を提案し実施している。</p>		
14		<p>○同業者との交流を通じた向上</p> <p>代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている</p>	<p>コロナの影響で外部研修が限られているがオンラインでの研修等で同業者と顔作りが出来るよう配慮している。</p>		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
II.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		<p>○初期に築く本人との信頼関係</p> <p>サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている</p>	<p>事前訪問やご家族様からの聞き取り、居宅のケアマネジャーからの情報をもとにご本人様の希望にできる限り寄り添えるよう心がけている。</p>		
16		<p>○初期に築く家族等との信頼関係</p> <p>サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている</p>	<p>コロナの影響で現状では面会制限があり対話できる時間が限られているが、ご利用者様のご様子を毎月1回お便りでお知らせし、それ以外でも健康状態や近況等を電話等で伝え開かれた施設を心がけている。</p>		
17		<p>○初期対応の見極めと支援</p> <p>サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている</p>	<p>ご本人様とご家族様にとって何が一番必要かを基に考えている。体調や認知症の進行によっては話し合いを持ち適切な施設・サービス導入についても説明を行っている。</p>		
18		<p>○本人と共に過ごし支え合う関係</p> <p>職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている</p>	<p>ご本人様の残存能力を見極め、ご自身で出来る事は出来る限りして頂いている。ご本人様の主体的な力が引き出せるように支援している。</p>		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
19		○本人と共に支え合う家族との関係 職員は、家族を介護される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご家族様には近況を丁寧に伝えている。コロナ禍で役割が減ってはいるが、ご家族様しかできない事は続けて頂いている。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	コロナの影響で外出する機会は減ったが、生まれ地域へのドライブ等行っている。コロナが落ち着いている時期はご家族付き添いの自宅外出も実施している。	コロナ禍で、馴染みの人に会ったり馴染みの場所に行く機会が少なくなったが、面会は電話で申し込みがあれば、マスクを着用して玄関で15分間できるようになった。家族や友人からの電話や手紙の取り次ぎ・2か月毎の訪問理美容・自宅の庭先へのドライブ・近隣の公園への散歩など、本人を支えてきた関係が途切れないような支援に努めている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	ご利用者同士がお話し出来るよう職員が配慮、会話やゲーム等が行える環境を準備している。		
22		○関係を断ち切らない取り組み サービス利用〈契約〉が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	入院退居であれば、出来る範囲で面会や今後についての相談に乗っている。退居時の日の最後の挨拶は特に丁寧に言いいつでも相談に乗れることを説明している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日常の会話の中から、希望や要望を聞き取りプランへ反映、ご家族からも同様に情報を聴取している。	日頃から会話や生活の中で本人の思いを汲み取り、うまく表現できない利用者の場合は家族や病院等からの情報を参考にしながら推測し、理念に沿った暮らしとなるように支援している。職員は利用者の思いを共有し、本人本位のケアとなるように努めている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居前にアセスメント。ご本人様からも一度に聞き出すのではなく普段の会話の中から生活歴等情報を聴取、把握している。又、ご家族様とも情報を共有している。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	個人のアセスメントシートを活用したり職員同士の連絡ノートや申し送りで情報を共有している。		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	月一回のミーティングや送り中の話し合いで情報を共有意見を出し合い介護計画を作成している。	利用者や家族の思いや意向に沿って、専門職や職員の意見も反映させ、アセスメントやモニタリングを通して本人の望む暮らしの実現に向けて検討を重ね、和を乱さずできることを中心とした利用者主体の介護計画を作成している。モニタリングは毎月実施して介護経過に記録し、家族の事情にも配慮して説明は丁寧に行い、利用者の現状に即した計画となるように取り組んでいる。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
27		<p>○個別の記録と実践への反映</p> <p>日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている</p>	<p>日々の生活をアセスメントシートや個人記録・連絡ノートへ詳しく記載し情報共有している。</p>		
28		<p>○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化</p> <p>本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる</p>	<p>ご利用者様の希望に応じて出来る事は柔軟に対応できるように心がけている。</p>		
29		<p>○地域資源との協働</p> <p>一人ひとりの暮らし方を支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している</p>	<p>コロナ禍で地域との交流が出来ておらず不十分であると思う。ユニット内、施設内でご本人様の力が出せるよう工夫している。</p>		
30	11	<p>○かかりつけ医の受診支援</p> <p>受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している</p>	<p>ご本人様、ご家族様の希望を伺ったうえで今までの治療が継続して提供できるよう支援している。疾患に応じた専門医との連携も主治医の協力を頂きできている。</p>	<p>入居に伴い協力医療機関がかかりつけ医となり、月1～2回の受診と看護師の訪問が行われている。管理者は内服薬管理として、薬が切れる時期がわかるように一覧表を作成したり、あらかじめ毎月の利用者の様子を記録して主治医に渡し、受診時の確認がしやすいように工夫している。夜間の急変時は当番医へ連絡し、疾患がある場合は協力医療機関で対応してもらうなど、常に指示を得られる体制が構築されている。</p>	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		<p>○看護職員との協働</p> <p>介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している</p>	健康状態の変化があれば昼夜問わず看護職員へ連絡、適切な対応ができるよう連携を行っている。		
32		<p>○入退院時の医療機関との協働</p> <p>利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。または、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている</p>	入院3日以内に情報提供書提出し、問題なく治療が行えるよう協力している。入院中もご家族や病棟担当の看護師・MSWと連携している。		
33	12	<p>○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援</p> <p>重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人や家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる</p>	コロナ禍でもあり高齢者の入院が進まない場合は、主治医と連携しご家族・ご本人様と早めにリビングウィルを交わし、意思を尊重したゆったりと過ごせる最期を支援している。（ここ1年）	「人生の最終段階における医療・ケアの決定プロセスに関するガイドライン」を整備し、リビングウィル(意思確認)も行って、この1年間で2名の看取りを実施した。終末期・看取り期においては引き受けてもらえる医療機関が少なく、家族の希望等もあり、ホームでの看取りを実施せざるを得ない状況となっているが、職員の認識は高く意欲的であり、研修やミーティングを実施してスキルアップや不安の軽減に努めている。	
34		<p>○急変や事故発生時の備え</p> <p>利用者の急変や事故発生時に備えて、すべての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている</p>	緊急時の対応を理解し連絡網を使い対応している。看護職員が勉強会時に率先してレクチャーを行い緊急時に焦らない心構え作りも行っている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
35	13	<p>○災害対策</p> <p>火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている</p>	<p>年2回消防訓練を行っている。ミーティングにて防災や水害等について話し合うようにしている。（雨季や台風発生時は特に）</p>	<p>風水害・地震に対して、2ユニット合同で夜間想定での災害訓練を年2回実施し、そのうち1回は消防署立ち会いで実施している。「非常災害時手順・対応についてのマニュアル」を作成し、BCP作成に関する話し合いも進めている。自動通報装置の設置や連絡網の作成・掲示を行い、運営推進会議のメンバーへの声掛けにより協力が得られる体制づくりにも努めている。備蓄はユニット毎に水・食料品等を約3日分準備し、カセットコンロ・ラジオ・懐中電灯等も用意して防災への意識を共有している。</p>	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	排泄時など他利用者様が気にされないよう努めている。一人一人に合った言葉かけを行い、鹿児島弁・標準語・関西弁を使って声かけを行うこともある。	人権擁護・プライバシーの保護・倫理及び法令については、年1回研修を実施して職員の意識付けを図っている。個人情報保護については方針を定め、「個人情報提供同意書」により家族の同意を得ている。トイレ・入浴時のプライバシーには特に配慮し、標準語で話すことで冷静さを保てるように心がけ、利用者の人格や感性を尊重したケアに努めている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日常の会話の中で表情をくみ取り、ご利用者様の本音を気づけるよう努力している。自己決定できるように働きかけている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	職員本位なケアにならないよう心掛けている。時間に追われ希望に添わず都合で動いてしまうときは職員間で時間のペース配分や成功例を出し合い事故を起こさない注意もしている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるよう支援している	常に身だしなみは注意して対応している。定期的な理・美容。ヘアクリーム等使用。乾燥時のクリーム塗布。ご本人の好きな服装や上履きを選んで頂く等継続している。		
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	配膳は職員にて行っているが下膳のできるご利用者様へは協力を頂いている。食台を拭く手伝いももらっている。	利用者の好みや摂取制限・食事形態・栄養バランス・アレルギー等を把握し、食事は全てユニット毎の献立表に基づいて調理専従職員が調理している。菜園では野菜やスイカ等を育て、草取りできる利用者もいる。利用者は発揮できる能力に応じて下ごしらえ・テーブル拭き等を手伝い、おせち・誕生会等の行事食にも対応して支援に努め、職員は利用者と同じ空間で時間をずらして食べている。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	個々に応じた食事形態や量など工夫している。季節感あふれる献立・鹿児島特有の食材を使った田舎料理など栄養面はもちろんの事見た目の美しさにもこだわっている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の臭いや汚れが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、声かけ誘導を行いご利用者様に合わせた対応で口腔ケアを行っている。自身で出来る方は自分の力で、出来ない方は職員が支援して清潔の保持をしている。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	排泄パターンを把握し自立に向けた支援を行っている。トイレでの排泄が増えるよう声かけ誘導を行っている。	終日トイレでの排泄を基本としており、排便チェック表や介護日誌によるチェックを行って、排泄の自立を目指した支援に取り組んでいる。トイレ誘導の声かけは自尊心やプライバシーに配慮し、緩下剤を使用している利用者では排泄チェック表を主治医にも見てもらい、利用者にあった適切な支援に努めている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	緩下剤に頼るだけでなく水分や食事、散歩等で排便コントロールができるように心がけている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援している	職員の仕事の都合上、午前入浴が多いが、今後は午後、夕方等への変更も検討している。	週3回の入浴であるが、皮膚疾患のある利用者、排泄の失敗、同性介助希望の場合など、利用者の状況に合わせて柔軟に対応している。入浴剤の使用やゆず湯等を行わず、シャンプー等は共用であるが個人用も可能としており、入浴をためらう利用者には、面会者に失礼がないよう等の理由付けをして無理強いせずうまく気持ちが向くように支援している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	居室の室温・加湿は目に見える値で確認し安心して休んでいたできるように心がけている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	看護職員が内服の説明を行っている。内服変更時は送り簿へ記載し事故の無いよう注意している。副作用についても共有している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活暦や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	コロナ禍でもご本人様の好きな事や得意なことを把握し気分転換などの支援を行っている。散歩や塗り絵、昭和歌謡等日々の生活に取り入れている。		
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるように支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	コロナの影響で行ける場所が限られている。散歩やドライブなど気分転換を行っている。	利用者の思いや希望に添って、自宅の庭先までのドライブ、近くの公園や近隣への散歩、少人数でのドライブ等の支援を行っている。病院受診に家族と出かけた時は、感染予防対策として終わったらすぐに帰ってきてもらっているが、できるだけ楽しんで外出できるような工夫・支援に努めている。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		<p>○お金の所持や使うことの支援</p> <p>職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している</p>	<p>病院受診時等に財布を預け「支払いをしましょうね」と声かけ。日常の一場面を経験していただいている。又、欲しいものができた時はご家族様へ確認し購入できるようにしている。</p>		
51		<p>○電話や手紙の支援</p> <p>家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援している</p>	<p>ご本人様、ご家族様が連絡を取りたい時は電話をして頂けるような環境づくりをしている。</p>		
52	19	<p>○居心地のよい共用空間づくり</p> <p>共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱を招くような刺激（音、光、色、広さ、湿度など）がないように配慮し、生活感や季節感を取り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>	<p>季節に合った飾りや花などで季節感を取り入れている。</p>	<p>広々として明るい玄関には植物の鉢が置かれ、利用者や家族が休憩や面会の際に使用できるようベンチが設置されている。玄関内にはスロープがあり、季節の飾り付けが施されている。ホールにはいす・テーブル・ソファ・生花・写真・時計・カレンダー等が居心地よく過ごせるように配置され、対面式キッチンからは調理の音や匂いが伝わってくる。エアコン運転中も窓を少しずつ開けて換気を行い、加湿器等も使用して空調管理に配慮している。</p>	
53		<p>○共用空間における一人ひとりの居場所づくり</p> <p>共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている</p>	<p>ご利用者様の年齢や関係性を把握しテーブル席などに配慮している。又ソファも設置。自由に移動してお好きなように過ごせるようにしている。</p>		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
54	20	<p>○居心地よく過ごせる居室の配慮</p> <p>居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>	<p>ご本人様が家で使っておられた物や家族写真など居心地よく過ごせるように工夫している。</p>	<p>フローリングで腰高窓仕様の居室には、エアコン・ベッドが備えられ、部屋の入口には名札・暖簾をかけ、室内の様子が少し伺えるように工夫されている。利用者は写真・花・テレビ・ぬいぐるみ・位牌等を自由に持ち込み、職員と一緒に居室の掃除を行う利用者もおり、居心地よく安心して過ごせる環境となっている。</p>	
55		<p>○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり</p> <p>建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している</p>	<p>なるべく出来る事はして頂き、ご本人様の安全に生活して頂けるよう工夫している。</p>		

V アウトカム項目

56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 (参考項目：23, 24, 25)		1 ほぼ全ての利用者の
		○	2 利用者の2/3くらいの
			3 利用者の1/3くらいの
			4 ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が一緒にゆったりと過ごす場面がある。 (参考項目：18, 38)	○	1 毎日ある
			2 数日に1回程度ある
			3 たまにある
			4 ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 (参考項目：38)	○	1 ほぼ全ての利用者が
			2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿が見られている。 (参考項目：36, 37)	○	1 ほぼ全ての利用者が
			2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている。 (参考項目：49)		1 ほぼ全ての利用者が
			2 利用者の2/3くらいが
		○	3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない

61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている。 (参考項目：30, 31)	○	1 ほぼ全ての利用者が
			2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により安心して暮らしている。 (参考項目：28)		1 ほぼ全ての利用者が
		○	2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている。 (参考項目：9, 10, 19)		1 ほぼ全ての家族と
		○	2 家族の2/3くらいと
			3 家族の1/3くらいと
			4 ほとんどできていない
64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 (参考項目：9, 10, 19)		1 ほぼ毎日のように
			2 数日に1回程度ある
		○	3 たまに
			4 ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている。 (参考項目：4)		1 大いに増えている
		○	2 少しずつ増えている
			3 あまり増えていない
			4 全くいない

66	職員は，生き活きと働いている。 (参考項目：11, 12)		1 ほぼ全ての職員が
		○	2 職員の2/3くらいが
			3 職員の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
67	職員から見て，利用者はサービスにおおむね満足していると思う。		1 ほぼ全ての利用者が
		○	2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
68	職員から見て，利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。		1 ほぼ全ての家族等が
		○	2 家族等の2/3くらいが
			3 家族等の1/3くらいが
			4 ほとんどいない